

コミュニティと創造性

都市の再創造はどのように成し遂げられるのか？世界各地で挑戦が進んでいる。本セッションでは、都市計画やアーバンデザインに立脚して、21世紀の都市の創造性を支えるエンジンともいえる「コミュニティと創造性」に焦点をあて、世界での動きを俯瞰する。

アジアからは成長著しい中国各都市の動きを、ヨーロッパからは旧市街の再生に成功したバルセロナの試みを、北米からは市街地の資源活用や再生を睨んだ制度運用を、そして、大阪のリバイタリゼーションに向けた取り組みを各パネラーより紹介いただき、20年後の大阪を再創造していくための方法論についてディスカッションを行う。

急成長に対応する都市計画の挑戦

譚 縦波 (清華大学建築学院都市規劃系・教授)



中国・清華大学建築学院を卒業後、日本に留学。大阪市立大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了後、国連地域開発センター(UNCRD) 研究員、森ビルグループのフォレストオーバーシーズ(株)を経て、1996年から清華大学建築学院副教授、2005年より教授に就き、現在に至る。また、2001年から1年間、ハーバード大学デザイン学院(GSD)に客員研究員として在籍した経験もあり、土地利用計画を中心とする都市計画システムや計画手法の国際比較を研究テーマとしている。都市計画の実践の場として、計画設計アトリエを主宰し、都市計画設計のコンサルティングも行っている。

大規模な都市開発が進む中国。成長・発展の一方で、様々な課題も抱える。例えば、開発志向のプロジェクトに都市環境と都市景観をどう守るのか、経済構造の転機に向かう地域における都市空間構造の再構成をどう考えるのか。実際にどのように取り組んでいるのか。中国都市計画のいまを紹介する。

葦の原を想え 大阪の想像力と創造力

橋爪 紳也 (大阪府立大学21世紀科学研究機構特別教授 観光産業戦略研究所長 大阪市立大学都市研究プラザ特任教授)



1960年大阪市中央区生まれ。京都大学工学部建築学科卒業。同大学院終了後、大阪大学大学院工学研究科博士後期課程で都市計画学・環境工学を修め、以後、近代日本の都市文化研究と都市観光研究を展開する。工学博士。現在、大阪府・大阪市特別顧問。大阪府立大学21世紀科学研究機構特別教授・観光産業戦略研究所長。大阪市立大学都市研究プラザ特任教授。大阪府市文化振興会議会長。イベント学会副会長。都市計画史・建築史をはじめ博覧会やイベント空間、ディスプレイ、盛り場や商業施設に関わる総合的な研究を展開するとともに、各地で市民参加型のまちづくりを実践。せんばGENKIの会代表世話人も勤める。「倶楽部と日本人」「明治の迷宮都市」「大阪モダン」「日本の遊園地」「祝祭の帝国」「人生は博覧会」「集客都市」「モダン都市の誕生」「飛行機と想像力」「日本の博覧会」「あったかもしれない日本」「モダニズムのニッポン」「にっぽん電化史」「大阪のひきだし」「大大阪 モダン建築」ほか、著書は数十冊。受賞歴に、ディスプレイデザイン研究大賞、エネルギーフォーラム賞優秀賞など。

都市大阪のバイタリティはどこにあったか？大阪の都市史を振り返り、未来の大阪を展望する。

包容力ある空間形成に挑むバルセロナ

阿部 大輔 (龍谷大学政策学部准教授)



1975年米国ハワイ州生まれ。早稲田大学理工学部土木工学科卒業、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了、同博士課程修了。2003～06年カタルーニャ工科大学バルセロナ建築高等研究院(ETSAB)博士課程に留学(この間、スペイン政府給費奨学生)。博士論文提出資格(DEA)取得。博士(工学)。専攻は都市計画・都市デザイン。政策研究大学院大学研究助手、東京大学都市持続再生研究センター特任助教を経て、現在、龍谷大学政策学部准教授。博士論文「スペインの歴史的市街地における保全再生戦略に関する研究」により、2006年度日本都市計画学会論文奨励賞ならびに日本不動産学会湯浅賞(研究奨励賞)を受賞。著書「バルセロナ旧市街の再生戦略」により不動産協会賞受賞。

都市再生の先進都市バルセロナが現在直面する課題は、観光色を強める都心部の用途コントロールと、社会的弱者が集住するコミュニティの包摂である。都市の創造性を追求することは、社会的に持続可能な地域空間づくりに寄与するのだろうか？都市再生先進都市であるがゆえに生じた、いわは再生後の亀裂や断層を修復していくバルセロナの挑戦を紹介する。

コミュニティとともに紡ぎ出す建築デザイン —北米におけるデザイン審査制度と創造性のこれから—

堀 裕典 (大阪市立大学都市研究プラザ特任講師)



1979年大阪府生まれ。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、トロント大学客員研究員を経て、2011年より現職。専門は北米の都市計画法制度、都市デザイン政策。著書は「世界のSSD100 都市持続再生のツボ」(彰国社、分担執筆)、「まちづくり百科事典」(丸善、事典編集)ほか。

大阪の都心部において多くの再開発事業や都市型マンションの供給が行われ、住環境の悪化や歴史的建築物の取り壊しによる地区環境の変化を懸念する声が多く聞こえてくるようになってきた。近年、日本においても「コミュニティ」という言葉が大きな市民権を得てきている一方で、行政による都市計画と「コミュニティ」との関係は必ずしも良好であるとはいえない。果たして「コミュニティとは何か」、「コミュニティが都市計画や都市デザインに対して果たすことの出来る役割とは何か」、また、逆に「どこまで都市計画はコミュニティに寄り添うことが出来るのか」という観点から、住民参加型建築デザイン審査の歴史が長いアメリカ・シアトル市、カナダ・バンクーバー市での取り組みを紹介し、今後、大阪が目指してゆくべき良好な開発やデザインガイドラインそして設計者の創造性とは何かという点について議論してみたい。

大阪 夢が叶う都市・大阪に向けた挑戦

嘉名 光市 (大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻准教授)



1968年大阪府生まれ。東京工業大学工学部社会工学科卒業後、株式会社三和総合研究所(現三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)入社。東京工業大学大学院社会理工学研究科博士後期課程修了。一級建築士、技術士(建設部門)、博士(工学)。大阪府・大阪市特別参与。現在、大阪市立大学大学院工学研究科准教授。専門は都市計画史、景観論、都市再生のデザイン論など。京阪神を中心として都市の再生に向けた都市計画・都市デザインに取り組む。著書に「景観再考」「生活景」「都市・まちづくり学入門」(いずれも共著)ほか。受賞歴に日本都市計画家協会特別賞(まちのcommons)、第3回ゆめづくりまちづくり賞優秀賞(船場アートカフェ)、日本都市計画学会関西まちづくり賞(船場げんきの会)など。

歴史都市、民都、挑戦する都市。大阪の持ちうる資源を活用した新しいリバイタリゼーションの試みが進んでいる。規制緩和や社会実験を基軸として民主導の都市再生をはかる取り組みを紹介する。